

式辞

柔らかな雨に大地は潤い、春の息吹が立ち込める季節となりました。本日ここに、御来賓の皆様、御臨席と保護者の皆様、御列席を賜り、令和四年度愛媛県立南宇和高等学校卒業証書授与式が挙行できますことは、在校生並びに教職員一同大きな喜びです。学校を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました百五名の皆さん、御卒業おめでとうございます。

令和四年四月に赴任して以降、様々な場所で、南高、どこにも負けていません！と言ってきました。そのことを、皆さんが次々と結果で証明してくれました。

その最たるものが、全国の公立高校で今年度南高だけが受賞した内閣府特命担当大臣表彰です。しかし、我々にとって、皆さん一人一人がとても輝いてみえたこと、それが何より大切なことでした。

サルトルというフランスの哲学者が「実存は本質に先立つ」という言葉を残しています。皆さんに当てはめると、一人一人の真実の存在があって、その後様々な学び・体験を通して今の自分を作りあげるという事でしょうか。個々の存在自体が何ものにも代えがたいという意味です。

体育祭の勝利の涙、悔し涙、相手を讃える姿、かつこよかった。部活動や習い事でもいっぱい泣いたはずです。就職試験や受験で思うような結果を得られなくても、切り替えて次に向かって戦う姿が美しかった。学校生活の中で、成功と失敗を繰り返し、成長していったのです。皆さん一人一人が世の中の宝として、まぎず存在し、そこに皆さんの努力によって本質が作られていきます。

大切なのは、この南高で基礎を作った皆さんが、今後どのような人生を切り拓いていくかです。皆さんは、高校在学中に新型コロナと闘い、乗り越えていった、まさに伝説の世代になります。多くの学校が四国近辺の修学旅行に切り替える中、皆さんは関東方面への修学旅行に無事行くことができました。体育祭の日も、だれもが諦めかけたあの天気予報にも関わらず、晴れ間をもたらしたのです。皆さんは“持っている”のです。運と呼ばれるものを呼び込むのは、自分自身の日頃の行動です。

保護者の皆様、本当によくぞこの素晴らしいお子様たちを南高に來させて下さいました。あの新渡戸稲造から直筆メッセージのある県下屈指の伝統校を卒業されるお子様たちは、本日我々の手から離れます。とても寂しいけれど、心からお祝い申し上げます。

校長の式辞なんて、だれも覚えていません。しかし、これだけは再度言わせてください。皆さん、本を読みなさい。今年一年、私はほぼこのことしか言っていない。本は皆さんの人生をまちがいなく豊かにしてくれます。どうか、本を読む人になってください。

あらためまして、ご卒業、おめでとうございます。そして、寂しいけれど、さようならです。母校南高をいつまでも忘れないで。皆さんの前途がさらに輝かしいものになることを祈って、式辞といたします。

令和五年三月一日

愛媛県立南宇和高等学校長

井上 浩